

地域おこし協力隊 【失敗しない自治体選び】



元地域おこし協力隊 ほっこりさんの
実体験と伝聞に基づく私見と分析

地域おこし協力隊とは（総務省HPより）

制度概要: 都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

活動期間: 概ね1年以上3年以下

ポイント

- ★地域おこし協力隊の制度の受け取り方が自治体によって違います。
- ★同じように協力隊になりたい人も受け取り方が人によって違います。
- ★両者の間に入る地域の方の受け取り方も違います。
- ★この3者のズレの大きさが着任後の居心地に関わってきます。

協力隊制度の受け取り方の例

- 自治体では手が届かない地域の課題を解決
【生活支援、買物補助、草刈り、イベント参加などなんでも屋】
- 自治体の仕事を知らないだとダメでしょ！！
【電話番、事務仕事、イベント準備、要は臨時職員・補助要員】
- スキルを活かして課題解決、スキルを活かした起業を目指す
- 定住が最大命題、活動内容の延長線上で就業
- あこがれの地、仕事も住宅もあるなら住んでみたい
- そもそも制度を知らない、何してくれるの？

地域おこし協力隊のデータ(総務省HPより)

隊員の
約4割は
女性

☆女性優遇の制度です

隊員の
約8割が
20歳代と30歳代

☆人生経験・社会人経験がなくても大丈夫です
☆子育て世代が活躍しています

任期終了後
約6割が
同じ地域に定住
※H27.3末調査時点

☆地域になじんで定住しています

- ★回答のあった自治体のデータのみ
【失敗したと感じている自治体はアンケートに答えません】
- ★任期途中で退任した隊員のデータは不明
【任期途中退任者が多くて表には出せないのでしょうね】

応募段階で知っておきたい

同じ自治体に同じ時期に入ったのに

「あの人」はあんなに楽しそうなのに

「私」は合わない・つらい・帰りたい

協力隊になるんじゃないかなと思ったとならないために



田舎への移住って人生の一大決心です (その自治体は移住者にやさしいですか?)

主な不安要素

十分な情報を得ることはできますか？

- 仕事「転職に関する情報」
- 住宅「住宅に関する情報」
- 文化「生活するうえで気をつけるべき地方特有の情報」
- 生活「教育・病院・福祉・お店などの情報」
- お試し「週末・短期移住体験に関する情報」

協力隊を受け入れる準備 1 (ここが不十分な自治体に着任すると大変)

受け入れ先と話し合ったの？

- 地域おこし協力隊のことなんて聞いてないので何もさせない
- 自治体で募集していた活動内容と受け入れ先のしてほしい活動内容が違う
- 地域密着の活動なのに地域住民に自分で聞き取りして活動したい地区は着任してから自分で見つけなさい

回避するには・・・

- 事前に受け入れ先の人に会わせてもらって話を聞きましょう
(現地説明会、面接に組み込まれている自治体は◎)

協力隊を受け入れる準備 2 (ここが不十分な自治体に着任すると大変)

こんな自治体だったら安心

- 地域おこし協力隊制度について各地区を回って説明し、受け入れたい地区を募集
- 地区代表者と地区の課題やしてもらいたい活動を話し合っ、協力隊の活動内容を決定
- 現地説明会や面接日に着任場所の見学と地域住民が課題や活動内容を説明してくれる
(面接前に見学させてくれる自治体はより親切)
- 着任地の代表者が面接に参加

協力隊に対する考え方 (自治体とのズレに比例して不満も増大)

何を求め、求められているのか？

- ・指定した活動内容以外はしてほしくない、休日にしてほしい
- ・スキルを活かして地域に貢献
- ・活動の実績を追及するより、とにかく定住
- ・起業のビジョンを実現したい
- ・自由な発想で色々なことをしてみたい
- ・生活基盤ができるまで協力隊制度を利用する

自治体の考えを変えるのは容易ではない。事前にすりあわせを…

協力隊の仕事の範囲 1

(ほとんどの協力隊が不満に感じている)

自然と納得できるのはどこまで？

- 依頼されたことは、どんなことでもやってみたい！！
(ボランティア精神溢れた何でも屋気質)
- 活動内容以外でも気づいたことがあれば自分から申し出る
(昔ながらのおせっかいさん)
- 地域の掃除や草刈りなんて協力隊の仕事じゃないです
(活動内容はちゃんとやりますが、きっちり線引きします)
- 地域の繋がりは大切にしますが、臨時職員扱いはイヤ
(定住したいからご近所付き合いは仕事と割り切ります)
- 時間が空いている時ならやりますよ

協力隊の仕事の範囲 2 (ほとんどの協力隊が不満に感じている)

ストレスなく請負える範囲を知っておこう

- 自分が請負える範囲と自治体や地域が求める範囲に大きなズレが発生しないように面倒がらずに確認と調整はしっかりと…
- 着任後でも調整できますが、大きなストレスと労力が必要です

人によって大きな違いがあるので問題です

- 複数の協力隊がいる場合、大きな差がでてくる場合があります。
「私は無制限」で「別の協力隊は業務以外はしない」の場合、別の協力隊から恨みを買うことも…

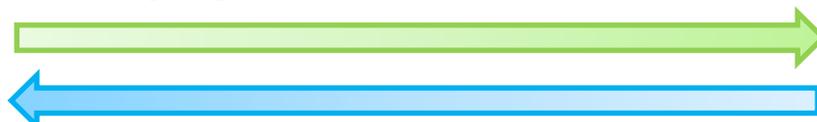
協力隊の仕事の範囲 ③ (ほとんどの協力隊が不満に感じている)

注意 この問題は自分に跳ね返ってくることも…

地域住民



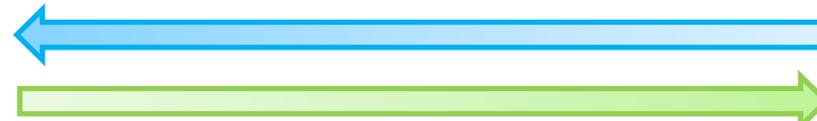
草刈りをしてもらえんか？



それは協力隊の仕事じゃないです



イベントの手伝いをお願いします



それはワシらの仕事じゃない！！

協力隊



あくまでも地域住民が協力隊を助けてくれるのはご好意です

協力隊になる前に感じる不安や怖さ (どこまで情報開示してくれますか?)

同じ不安や怖さでも…

- 自分の目で見て、感じて、聞いて、いろいろな情報を知った上で感じる不安や怖さと何も教えてもらえないから感じる不安や怖さは違います
- 協力隊が着任してから「こんなはずでは…」とならないように受け入れる自治体は応募してきた人の不安を解消する努力をしてもらいたいものです

勇気を出して…

これからの人生を左右することなので、気になることは積極的に質問しましょう。対応の悪い自治体は着任後もいろいろと不親切でしょう。

現地を見ずに面接→着任は避けたい (自分の目で見てみたい)

現地説明会 & 見学への参加

- 自治体によっては説明会を開いたり、現地見学を随時募集しています。していなくても個別にお願いしてみましょう。
(個別見学を断る自治体であれば、応募を見送る決断も…)
- 説明会や個別であっても現地見学は数時間を要します。
(協力隊に対する自治体や担当者の想いが分かります)
- 現地見学に伺ったのに役所・役場内でパンフレットや書類で説明し質問を受けつけるだけで終わらせる自治体もあります。
(協力隊なんかに時間を費やしたくない、現場を見せたくない、受入先の人に会わせたくない…という気持ちが見え隠れします)

先輩協力隊員 1

(情報を得る絶好のチャンス)

いるのなら…ぜひ会っておきたい

- 生きた先輩移住者の意見、どんどん質問しましょう
(後輩が出来るのは嬉しいもので、色々教えてくれるものです)
- 人の繋がりを利用して先輩協力隊員と関係のある人も紹介してもらいましょう(地域住民、関連団体職員など)
- 合わせて町内の各施設(学校、病院、スーパーなど)や観光地なども見せてもらいましょう

注意

あくまでも先輩協力隊員の私見なんで信じすぎないように気をつけて…

先輩協力隊員 2 (情報を得る絶好のチャンス)

ズケズケと聞いておきたい

- 自治体職員や地域住民の気質や関係性
(一番大事な人間関係になります)
- 活動内容に関わること
(自由度や満足度、今後の展開、退任後のことなど)
- 地域特有の文化や習慣
(生活習慣に馴染めずストレスを抱えないように)
- 移住者の集まるコミュニティの有無
(孤独になりがちな協力隊の息抜きの場)
- 面接について聞いてみるのもいいでしょう

先輩協力隊員 3 (情報を得る絶好のチャンス)

退任した協力隊は今…

- 退任した協力隊の現在の仕事は自分の将来にも関わってくることなので聞いておきたいですね
- 現在の仕事が着任した活動内容の延長線上にあるのならば、起業ありきでの活動ではなく、地に足をつけた地域支援活動をすることができますね
- 合わせて隊員の定住率も知っておきたいですね
(自治体や地域の排他性を知ることができるデータの一つ)

先輩協力隊員がいるからといって、自分にとって安心安全な自治体とは限りません。自分だけの判断基準を…

退任後のイメージ (起業ありきか・・・就業か・・・)

自治体にイメージがあるのか？

- あくまでも移住において、就業は自己責任だと思います
- しかしながら「**地域協力活動**」を行いながら、その地域への**定住・定着**を図るといふ総務省の制度を使って地域おこし協力隊を募集するからには、自治体が退任後について無関心だと制度が瓦解してしまいます
- 面接時に聞かれることが多い退任後の考えですが、自治体としての考えを聞いてみるのも自治体を選ぶ判断材料になるでしょう

退任後、起業できなければ途方に暮れるということがないように就職先があるのか調べることも大切です

まとめ

(自分に合った自治体はあります)

応募者目線

- これからも続くであろう地域おこし協力隊制度がより良くなってほしいという思いから応募者の立場から自治体の言動を分析しました。
- 個人の考えや価値観によって、活動しやすい・生活しやすいと感じる自治体は違ってくると感じています。
- 自治体と応募者のマッチング精度が高まれば、地域おこし協力隊が活躍する場面は必ず増えてくると信じています。

自分にぴったり合う自治体を見つけてください